

# 予算と職員増やしてキャンペーン「アンケート結果速報」

宅難民となったり、危険な状態の中を徒歩で帰宅せざるを得なくなった職員も多数いました。

また、業務のために迂回ルートを利用したり、タクシー等を利用して出勤した職員も多数いますが、通常の通勤ルート外の交通費が自己負担となっている実態も明らかになっています。

「5%となっています(グラフ③)」。また「出勤で交通費の自己負担があったか」の問いには「あった」と答えた人が4割を超えています(グラフ④)。

アンケート結果では、危険回避・交通途絶回避のための特別休暇を「取得した」と回答したのは約4割で「業務のために取得できなかった」15.6%で「年休・夏期休等で対応」14.5%、「業務のため取得できず」15.6%、「取得の必要がなかった」25.0%、「知らなかった」1.9%、「その他」5.4% (58)。

「大阪府が災害に強いと思うか」の問いには「思わない」が半数を超え「思う」はわずか4.9%でした(グラフ⑤)。「思う」と回答した人の理由には「非常時に最大限可能な方法で参集しようとする意識の高い職員が多い」「私たちがしっかり施設を保全している」「職員の使命感が強い」「少々大変でも仕事を投げ出す人がいない」「職員のみならず協力的」など、職員の懸命の努力を示している意見も多数寄せられています。

## マンパワーを発揮するための労働条件の確立こそ重要

私たち公務員・自治体職員は、日本国憲法第15条で「全体の奉仕者」とされ、「住民の安全・安心の確保、福祉の向上のために仕事を責務があります。しかし、それはボランティア精神や自己犠牲で行うべきものではありません。真に災害に強い大阪をめざして

## 今回の災害等の対応で問題や疑問に感じたこと

(アンケートに寄せられた意見より抜粋)

### 災害時の交通費自己負担はおかしい

災害等により交通費の自己負担が発生した場合、実費を支給されるのが当たり前だと思ってしまう。特別休暇取得が全て所属の判断とされており、取る取らないも各個人に任されている。所属長判断(マネジメント)はなかった。BCP(災害時等のリスク発生時の事業継続計画)を保健所ごとせず、府として決めてほしい。正規の通勤ルートの復旧まで何日も交通費の自己負担を強いられるのはひどいと思った。帰宅(実態と合っていない)業務が回っていない。緊急時の対応が困難になると感じた。特別休暇の判断が各交通機関の判断に委ねられるなど、あり得ないと思う。幹部職員とはいえ、女性職員が一人で対応していたことに、これだけの対応だった。配備体制の決定が遅い。災害の種類(地震と台風など)や発生時間帯などさまざまなケースを想定した行動指針が職場、職員ごとに必要と思う。交通用具使用者の特休取得について、暴風警報など判断する基準が必要と思いました。この日はなんの業務もまともに行われてなかった。ルールだから全員を出動させて庁舎に詰め込んでなんの意味があるのか。チームリーダーからタクシーでの出勤を要請された。トイレが使えないことがとてもつらかった。暑い中、水分を控えてエコノミー症候群や脱水の恐れもあった。迂回ルートを使用して苦勞しつつ出勤した職員とそうでない職員が異なることに疑問を感じる。危険が多く、身動きが取れない。帰宅する交通手段がなくなると、引き続き水防業務をすることが必要だが、災害なので業務は必要だが、人員不足なので、議員からの不要な問い合わせや無理難題が多すぎる。市町村の人員不足、経験不足を感じる。出勤できない職員が多数おり、本来の夜勤者が早めに出動して、そのまま夜勤業務にあたることもあり、なんとか出勤できた職員の出動が少なかった。別のところで力を使いたかった。上司に年休、夏期休が余っているから、それで休んでと言われた。非常勤職員も特別休暇を認めるようにすべきだと思います。停電となつてそのことによる保健所自体の環境の悪化(パソコン、空調、トイレの貯水、電話の一時不通、照明など)があった。現状の施設基盤で災害時に保健活動ができるか疑問である。

「大阪府が災害に強いと思うか」の問いには「思わない」が半数を超え「思う」はわずか4.9%でした(グラフ⑤)。「思う」と回答した人の理由には「非常時に最大限可能な方法で参集しようとする意識の高い職員が多い」「私たちがしっかり施設を保全している」「職員の使命感が強い」「少々大変でも仕事を投げ出す人がいない」「職員のみならず協力的」など、職員の懸命の努力を示している意見も多数寄せられています。

### 歩いて出勤したのに公務災害の対象外?

片道5kmを歩いて出勤したのに事故時は公務災害にならないと言われた。職場

10月27日、女性部は、午前中に第64回府職労女性部大会、午後から女性労働学校を開催しました。保育室も完備し、子どもを連れて女性部の取り組みに初参加した方もいました。

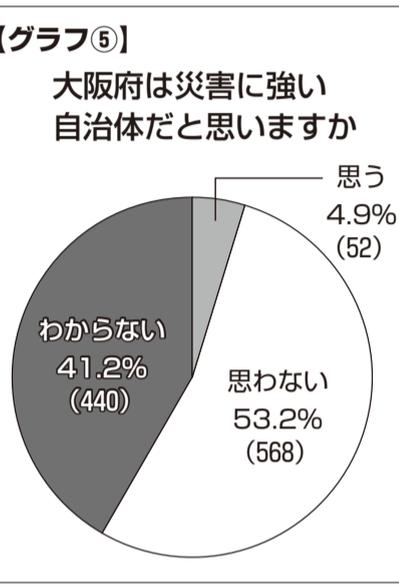
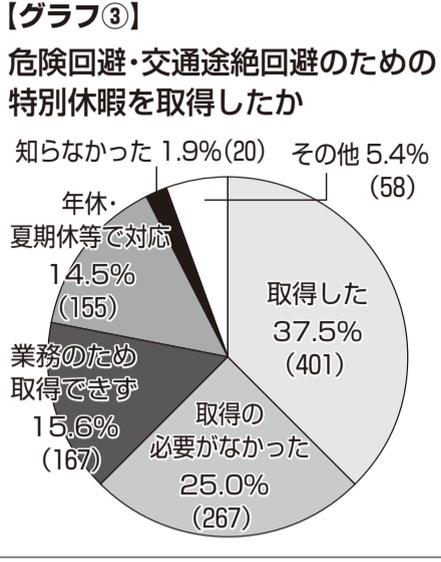
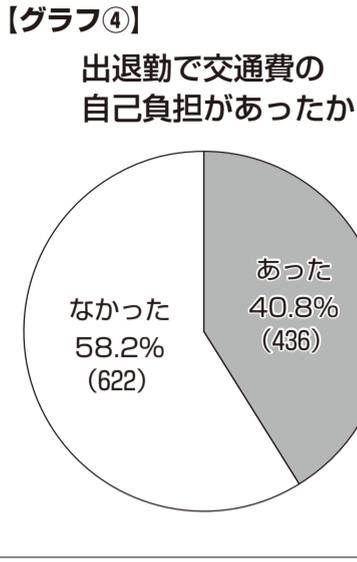
## 実態をもとに要求をだして改善が実現

### 女性部定期大会

毎年6月に開催していた女性部定期大会ですが、先の大坂北部地震発生に伴い、今回女性労働学校と同日に開催しました。大会では、8支部から11本の発



理想の生活を具体的に目で見える形にした。現状とのあまりの隔たりに「どうしたら近づけるか」という思いとなりますが、身近なことからも一歩一歩近づくアイデアをみんなで出し合ったことで、現実が可能になるのではという希望のようなものを感じることができました。



要求... できる予算... 個々の職... 住民の... 必要... 力を発揮... 整備や周知... 業務です... 確保・整備... 危険回避・交通... 休暇等が取得... 業務のため... 等を利用し... 今後の災害発... 件の整備が費

特別休暇の対... 職員の待遇改... からの撤退... ことも、咲洲... ことは明ら... 最も早い咲洲... 集約庁舎の... ンティア休暇... 故障のない範... での災害復旧... ボランティア